

# 短期予報解説資料 2026年8月18日15時40分発表

気象庁

## 1. 実況上の着目点

- ① 日本海中部に500hPa 5820m付近で $-6^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気を伴うトラフがあって北東進。上空ほど循環が明瞭で衛星画像で雲渦が確認できる。対応する低気圧が、中国東北区を東北東進。
- ② ①の低気圧から南西にのびるシアーラインは、対馬海峡から日本海に流れ込む850hPa  $\theta_{e345\text{K}}$ の暖湿気に対応しており、上空寒気により日本海中部で活発な雷を検知。対馬近海では下層暖湿気による激しい雨を解析。
- ③ 日本のはるか東に中心を持つ高気圧が、本州付近に張り出し、その縁を回る東～南風の下層暖湿気や日中の気温上昇の影響で、西日本の太平洋側や北日本で強い雨や激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

- ④ フィリピンの東には熱帯低気圧があって西北西進。沖縄の南では、激しい雨と雷を検知。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 19日～20日は、1項①のトラフ対応の低気圧は世代交代しながら、サハリン付近からオホーツク海を北東へ進み、北海道地方では前線が通過して強い風が吹いて波が高くなる所がある。北海道地方では、強風や高波に注意。
- ② 1項②のシアーラインは19日～20日にかけて、北日本～北陸地方を南下する。シアーライン近傍の下層暖湿気は19日からは、朝鮮半島を通して日本海へ流れ込む形となり、日本海の $\theta_{e345\text{K}}$ 以上の領域は縮小する一方、500hPa5880m付近の強風軸が接近し、上空の気温は低下する。下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨が降って大雨となる所がある。北日本では20日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、20日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意。
- ③ 1項③の高気圧の縁を回る下層暖湿気や地上の昇温、2項②の上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨が降って大雨となる所がある。これまでの雨で地盤の緩んでいる所では、普段より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。西日本では18日と20日は、北～東日本では19～20日は、落雷、突風、降ひょうに注意。また、上層の高気圧が勢力を増すことに伴い、西日本を中心に20日にかけて猛烈な暑さとなる。熱中症に注意。
- ④ 1項④の熱帯低気圧は、20日にかけて先島諸島近海を通して東シナ海に進む。熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨が降り大雨となる所がある。沖縄地方では、19～20日は土砂災害に注意・警戒し、20日にかけて落雷、突風に注意し、19～20日は高波に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ②波浪(明日まで)：北海道・奄美・沖縄3m。

## 5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。